

令和4年度 第2回倉敷科学センター協議会 議事録

【日 時】 令和5年3月29日（水）18：30～21：00
【会 場】 科学センター実験実習室及びプラネタリウム
【出席委員】 岡本委員、荻野委員、片岡委員、末田委員、中原委員、福田委員、原委員、
箕口委員、山田委員
【欠席委員】 平松委員
【事務局】 三宅部長、島田参事、藤田館長、三島主幹、石井主任、西村主任
【傍聴者】 2人

1 開会

(1) 挨拶

【事務局】 予め欠席の連絡をいただいております平松委員を除いて、委員の皆様お揃いの方ですので、ただいまから、令和4年度第2回倉敷科学センター協議会を開催いたします。

私は、倉敷科学センター館長の藤田と申します。本日は全体の進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず会議の成立についてですが、倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により、委員の半数以上の出席をもって成立いたします。今日現在、委員は10名の方に委嘱しておりまして、ただいま9名出席されていますので、会議は成立しております。

なお会議は原則公開ということで、本日は傍聴者の方が2人いらっしゃいます。

それでは、お手元にお配りしております協議会要項に従って進めて参ります。まず、会議に先立ち、教育委員会を代表いたしまして、生涯学習部長の三宅が御挨拶申し上げます。

【部 長】 委員の皆様、こんばんは。本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

科学センター、ライフパーク倉敷全体もそうなのですが、最近やっとコロナが落ち着いてきたというか、感染者数が少なくなってきた、利用者の方もたくさん訪れていただくようになってきています。まだまだコロナ前までは戻って来ていませんが、少しずつでも戻って来てくれて、ありがたいことだな、と思っています。

昨年、一昨年もそうなのですが、科学センターもできる限りの工夫をしながら、少しでも講座やイベントをできるように頑張ってきました。このあと令和4年度の事業実績、令和5年度の事業計画について報告がありますが、5月には新型コロナウイルス感染症が2類から5類相当に変わることもあり、通常どおりの開館ができて、通常どおりの講座やイベントができたなら本当にいいな、と思っています。

今日は、来年度の7月から上映開始する全天周映画の番組の選考と、来年度の夏休み企画展について御審議いただきます。御来館いただく皆様により一層喜んでいただけるようなものやっつけていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様、御審議のほどよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

(2) 委員紹介 (名簿順に自己紹介)

※平松委員が欠席することを改めて事務局から伝達

(3) 事務局紹介 (自己紹介)

※三島主幹が試写に備えてプラネタリウムで待機中であることを事務局から伝達

2 諮問

【事務局】本日御協議いただく事業計画について、諮問させていただきます。コロナ禍という状況でもあり、諮問書については箕口会長に既にお渡ししておりますが、内容としてはお手元のレジュメにもあるとおり、次の2項目についてです。よろしくお願いいたします。

(諮問) 「1 令和5年度夏休み企画展の選定について」

「2 令和5年7月期全天周映画上映作品の選定について」

3 報告・協議事項

【事務局】ここから議事進行を箕口会長さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(ここから箕口会長が議事を進行)

(1) 議事録署名人の選任

【会 長】ありがとうございます。それでは、箕口の方から議事進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の議事録署名人を2名選任したいと思います。いかがでしょうか。

【特に意見なし】

【会 長】自薦がないようでしたら、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、福田委員さんと荻野委員さんをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】 それでは、お二人の委員さん、よろしくお願いいたします。

(2) 【報告1】「令和4年度事業報告について」

(3) 【報告2】「令和5年度事業計画について」

【会 長】 はい。それでは議事の方を進めさせていただきます。

まずは報告事項1の「令和4年度事業報告について」と報告事項2の「令和5年度事業計画について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 はい。失礼いたしますが、座ったまま説明させていただきます。

お手元の資料で委員名簿の次に1枚資料を追加しております、平成25年度以降今年度までの10年間の来館者数、科学展示室とプラネタリウム、それから各講座等ののべ人数の推移です。今年度は3月28日、つまり昨日の締めですので残りまだ3日間あるんですが、(ほぼ年間の数字に近いものとして)資料を見ていただきますと、平成31年度、令和元年度ですが、前年度末の3月27日にプラネタリウムをリニューアルオープンした直後の年度で、来館者数が非常に勢いよく伸びてきていたところ、年度末近くになって新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館をすることになりましたが、175,820人と、比較的多くの来館者があった年になります。以降、令和2年度、令和3年度と6万人台が続き、惨憺たる状況になったんですが、この2か年度については、臨時休館した日数もかなり多かったこともあり、入館者数の制限以上に休館したことによる影響が大きかったことと思います。令和4年度については、コロナによる臨時休館は1日ありませんで、年末に電気設備点検等のために1日、それから秋分の日に台風接近のために1日臨時休館しただけでした。ただ、入館者数の制限は引き続き実施しており、科学展示室は同時入館者数を概ね100人程度に、プラネタリウムも前半の6か月は座席数の半分の80人程度に入館者数の制限をしていたんですが、コロナ前の7年度分の平均に対して7割を超える来館者が戻ってきた、という結果になりました。(感染症対策を行いながら、)コンスタントに年間通じて開館できたことで、地域の科学館が安心して利用できる施設であると、利用者の皆さんに認識していただけたのかな、と感じています。やはり、臨時休館を繰り返していると、再開してもすぐに来館しても大丈夫なのかな、という風に利用者の皆さんも不安を感じるのか、すぐには増えて来ないような状況もあったので、今年度は年間通じて開館できたことが良かったのだと思います。

「資料1-1」以降は、予め委員の皆様にお送りして目を通していただいた物です。

この中で「資料1-2」の3、4の団体内訳、特に小学校の内訳を見ますと、県内、県外の小学校は概ね戻って来てくださったようですが、残念なことに(平成30年度後半にプラネタリウムの改修工事が入って、特に市内校の利用がかなり減ったあと、児童数が減少傾向にあるとはいえ、)市内校が若干戻りきっていない印象があります。学校団体の利用でいうと、コロナ前は特に2学期に利用が集中していたんですが、コロナ禍になって、3学期にも御利用いただく学校が増えてきています。

「資料1-3」の6は、市内の小学生に配布しているいきいきパスポートの利用状況です。市内の小学生はパスポートを、中学生も生徒手帳を窓口で提示すれば、展示室とプラネタリ

ウム、全天周映画がいつでも無料で利用できるというものですが、こちらも令和2年度、3年度に比べると利用が増えてきているんですが、コロナ前は1万人を超えてる年もあるので、もう少し増える余地はあるのかな、と感じます。

右の7は、真備天体観測施設たけのこ天文台の開館状況です。講座は未だ再開できていないんですが、開館時に天体観望会を実施しています。

その下の8は、夏休み企画展の内容と8月の入館者数（科学センター全体のべ人数）です。このあと来年度、つまり今年の7月からの夏休み企画展の内容を御審議いただきますが、例年ですと、科学センターは夏休みに家族連れの皆さんの利用が増え、この時期にお客様が集中します。それぞれの年の企画展の内容によって、どのように入館者数が変わるか、という傾向が見えてくるんですが、恐竜をテーマにした企画展を開催した年は、入館者数が突出して多いのかな、と感じています。

「資料2-1」以降の令和4年度事業実績については、2の開館日数の項目で、9月19日の台風による臨時休館が漏れていましたので、事前にお送りした資料からこの項目だけ訂正しております。3の利用者数については2月末では11万5千人、今は12万人を少し超えたくらいですね。

以下、プラネタリアムの番組は御覧のとおり。一番下に特別投映を載せていますが、「3.11プラネタリアム特別投映『星よりも、遠くへ』」は東日本大震災のドキュメンタリー番組として仙台市天文台が制作した「星空とともに」の続編で、プラネタリアムをリニューアルしたあとの令和2年3月に上映を企画していたんですが、そこから毎年3月のこの時期にコロナによる臨時休館が繰り返されたため、今年の3月にやっと初めて上映できたものです。それから「こどもむけ☆ぷらねたりうむ」は（学校園団体向けではなく）一般向けに初めて上映したものです。

「資料2-2」の一番上は、全天周映画の上映番組です。この協議会で選定していただいた作品を年間3本、順次計画的に上映しております。現在上映しているのが、去年の7月から上映している「恐竜超世界」、これは今年の夏休み前までですので、このあと、次の番組を選定していただくこととなります。それから11月から上映中の「アポロストーリー」、今月から上映開始した「眠れない夜の月」の3本が現在上映中の番組です。

5の展示室運営事業ですが、(1)の夏休み企画展、先ほども申し上げましたが、展示室の核になる事業です。今年度は7月16日、夏休みに入る前の週末からですが、そこから40日間の会期に対して、16,531人、これは期間中の展示室のべ入館者数を企画展の入館者数とみなしているんですが、（同時入館者数100人の）入館制限があった中では、たくさんの方に来ていただけたのかな、と思っています。

以下、「こども科学絵画作品展」、星空と風景を同時に写した「星景写真展」を3回、最後に「プラネタリアム100周年記念事業『全国プラネタリアムこども絵画展』」を載せていますが、プラネタリアムが誕生して今年でちょうど100周年に当たるということで、全国のプラネタリアム保有施設が協力してさまざまなイベント等を行おうとする一環で、今回は子どもたちにプラネタリアムに関するエピソードを交えた絵を描いてもらって展示しようという企画を実施しています。このあと全天周映画の試写で移動するときに、プラネタリアム入り口のホワイトエという場所の掲示板に掲示してありますので、お時間に余裕がありましたら、御覧ください。

6の講座・イベント・普及事業の(1)、各種講座については、今皆さんがいるこの実験実習室を使って開催しているんですが、だいたい定員を12人、テーブルが6台ですので各テーブル2人ずつで、感染症拡大防止のためにテーブルの真ん中に透明なパーティションを立て、対面で座って実施しました。コロナ前は各テーブル3人ないし4人で定員18人ないし24人という形で開催していたんですが、今は制限を設けて実施しているということです。それでも年間通じて、今年度は数多くの講座を開催できたと感じています。表の中ほどにある「天文・科学講演会」については中止としていますが、例年プラネタリウム等の100人以上集まる会場で、JAXA等から外部講師を招いて開催していましたが、遠方から外部講師を招くのがはばかられたため、今年度は中止としました。

ページをはぐって「資料2-3」の(2)の特別企画は、主にライフパーク全館を使って行う大きいイベントになります。コロナ禍で令和2年度、3年度は全て開催を見送りました。今年度は規模を縮小したり、形式を変えたりしながら、それぞれ開催することができました。例えば表の下から2行目の「青少年のための科学の祭典」ですが、以前は11月の第2土日の2日間で最大でのべ1万人くらい来るような、すごく大きなイベントだったんですが、さすがに自由に出入りできるような形での開催は難しいということで、今年度は事前申込にして、土曜の午後、日曜の午前・午後の3枠の各回完全入替制、合計600人程度の規模で開催したところでした。特別企画全体で2,516人の参加人数でしたが、コロナ前ならもう1桁上の参加があったものとはいえ、過去2か年度、一切開催できていなかった特別企画を、一通り開催できたこと自体には、大きな意義があると感じています。

それから(3)の公開教室は、基本的に無料でどなたでも申し込んで参加いただける講座、あるいは天体観望会です。こちらも年間通じて開催することができました。特に天体観望会については、コロナ禍で過去2か年度は、プラネタリウムでの事前解説を休止していて、天候が悪い場合は観望会自体を中止としていたんですが、今年度は天候が回復しない場合でも、プラネタリウムでの事前解説だけでも楽しんでいただこうということで、開催して参りました。それから移動プラネタリウムについては、学校の要望に応じて、体育館にドームテントを設置してプラネタリウムの解説をするものですが、ドームテント内は感染症対策がしづらいということで、今年度も開催を見送っております。

7の真備天体観測施設運営事業については、「資料1-3」で説明したとおり、天体観望会のみで開催でございます。

以下、広告事業、委託事業の予算状況でございます。

【事務局】 続いて来年度、令和5年度の事業計画について御説明いたします。

「資料3-1」の一番上に書いてある「予算は議決前なので」というただし書きですが、協議会の開催時期が2月議会後に変更されましたので、記載された3事業の内訳のとおり、総事業費97,177,000円で議決を受けております。

2の利用者数の見込みについては、歳入予算の見込み額にも反映されますので、例年どおり165,000人を目標に設定しております。

3の宇宙劇場は、プラネタリウムの番組、全天周映画の番組の上映予定で、全天周映画については、この協議会の場で都度、御協議いただき選定していくこととなります。

4の(1)の夏休み企画展についても、このあと御協議いただき選定して参ります。

「資料3-2」の(2)のこども科学絵画作品展も例年どおり開催予定です。また現在開催中

の(3)の星景写真展、(4)のプラネタリウム100周年記念事業の絵画展については年度またぎでそれぞれ4月の下旬もしくは春休み期間中まで引き続き開催していく予定です。また年度未開催予定の(5)の星景写真展についても必ず実施するというので、ここに挙げております。

5の(1)の各種講座については、当面は定員を12人に絞ったまま開催していく予定ですが、先ほど説明しましたとおり、(新型コロナ感染症が5類相当になる)5月8日以降は、テーブル当たりの人数を2人から3人あるいは4人に増やせる見込みが立てば、定員を増やして開催していきたいと考えております。

(2)の特別企画についても例年どおり(コロナ禍前に実施していた事業を)挙げております。開催方法については今年度同様に事前申込制にするなど、定員を絞った形式を想定していますので、参加見込人数がかなり少ないですが、これも感染症の状況を見て、より多くの方に参加いただける状況であれば、柔軟に変更していこうと考えています。

(3)の公開教室も今年度と同じように開催していくつもりですが、移動プラネタリウムについては、科学センターが閑散期になる1月に希望する学校を訪問して実施していましたが、コロナだけでなく季節性インフルエンザも流行する時期と重なりますので、その辺りの状況を見ながら、募集開始するかどうか判断したいと思います。以上です。

【会 長】 ありがとうございます。ただ今説明のあった「令和4年度事業報告」及び「令和5年度事業計画」について、何か御意見・御質問はございますか。

【委 員】 よろしいですか。公開教室についてなんですが、参加予定人数が前年度に比べて少なくなっているんですが、内訳を見ると「天体観望会」と「天文台公開等」が令和4年度は分けているのに、令和5年度の計画では「天文台公開天体観望会等」と一緒にしているのはなぜですか。

【事務局】 はい。回答してよろしいですか。「天文台公開」は、屋上の天文台あるいは文化財のスライディングルーフ観測室を紹介することが主目的で、その中で、気象条件が適えば星空や太陽の観察もしていただける、という趣旨でやっています。ですから、場合によっては曇天のため、天文台の施設見学だけで終わることもあり得る活動になります。一方「天体観望会」は、星空を観ることが主目的ですから、事前にプラネタリウムでこれから観る星空の学習をしたあとに、天文台で実際に星空を観ることになりますが、こちらは曇天であれば、プラネタリウムの解説だけで終わることもあり得ます。結果的に天文台で星空を観ることができる活動でも、趣旨と実施方法が異なるんですが、来年度については、この資料作成の段階で、まだ内訳を分けていなかったため、一緒に挙げております。

【委 員】 はい。分かりました。

【会 長】 ありがとうございます。他にございますでしょうか。

【特に意見・質問なし】

【会 長】 では、御意見・御質問出尽くしたということで、報告事項については、認められたこととさせていただきます。

【全員異議なし】

(4) 【協議1】「令和5年度夏休み企画展の選定について」

【会長】次に「協議1」の「令和5年度夏休み企画展の選定について」、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】はい、よろしく申し上げます。「令和5年度夏休み企画展の選定について」と書いた別刷りの「資料6-1」の束を御覧ください。表に白黒で両面印刷した1枚物の資料と、その後ろにカラー印刷で三つの提案資料が各1部ずつありますので、御確認ください。

来年度の企画展の期間としては、7月15日の土曜日から8月31日までの約40日間を計画しております。

選定の候補としては、複数の企画会社の提案をいただいた中で、今まで科学センターで実施した企画展の実施状況、また近隣施設での実施状況等を参考にしながら、事務局側で事前に三つの候補に絞らせていただきました。一つ目が『『撮っても楽しい科学展』～映える！おもしろサイエンス～(仮称)』、これは画像撮影を効果的に生かした、SNSを活用する科学展、ということです。二つ目が『『なりきり！きょうりゅうランド』～おいでよドキドキ恐竜の国～(仮称)』、これは恐竜になりきって体を動かして、小さい子でも楽しめる恐竜展、ということです。三つ目が「くらべてみよう！どうぶつ原寸大図鑑展(仮称)」、これは原寸大を意識し、さまざまな動物たちの生態を実感できる科学展、ということです。これら三つの提案について、説明していきますので、その中から選定していただきたいと思います。

『『撮っても楽しい科学展』～映える！おもしろサイエンス～(仮称)』

一つ目です。『『撮っても楽しい科学展』～映える！おもしろサイエンス～(仮称)』ということで、スマホはもうほとんどの御家庭で普及していて、子どもたちも使っている、学校でも(タブレット型)端末を使って授業するような時代になっています。SNSや画像撮影は、子どもたちにとって、とても身近なものになっていますので、情報拡散等も簡単になっています。画像撮影に効果的な、視覚、錯視とか不思議な映像なんかを撮影できる、「記録と記憶に残る展示」がたくさん広がった、小さい子でも参加できる、またお年寄りや大人の方でも写真の中に入って楽しめる、そう言った年齢を問わず多くの方が楽しめる企画展になっています。

別刷りの資料を御覧ください。それぞれの内容について、細かくお伝えします。

1枚目の裏に『エームズの部屋』という展示の写真があります。どこかで見たことがあるという方も多くいらっしゃると思いますが、同じぐらい背丈の子が大きく見えたり小さく見えたり、錯覚を起こすような展示の仕掛けで、写真を撮ってそのままSNSに投稿できるというような展示になっています。

二つ目が『さかさま重力の部屋』で、一般的な部屋が丸きり逆になっていて、床に立つとそこが天井になっていて、写した写真を上下逆さまにすると、天井から人が逆さまに立っている写真が情報発信できる、という仕掛けの展示です。

2枚目の表の左上『とうめい人間と記念撮影』は、マジックミラーを挟んで半透明の人間としっかり見える自分が並ぶような、不思議な写真が撮れるという展示です。

その下にあるのが『ファニーフレンズ』と言うデジタルを利用した展示で、カメラで映し出された自分の顔や両手がさまざまな動物の物に変化して、自分の動きにシンクロして動くおもしろい映像を楽しめるというものです。

このように小さい子でも簡単に展示作品の中に入って、家族の方に写真を撮ってもらって SNSで情報発信することができる、という楽しみ方に特化した、科学的には目の錯覚、錯視を使った企画展になっています。

一番後ろに会場全体の図面が載っています。多少スペースにゆとりのある造りになっています。たぶん、写真を撮影するためのスペースだと思うんですが、資料1枚目の裏に予算内訳があって、展示物が少ない分、他の提案と比べて廉価になっていまして、提案した会社に確認したところ、常設展示の（錯視の展示）スペースに新たな展示を追加して、予算内に収めた上で、さらに楽しいエリアを上げられる、というお話も伺っていますので、特別展示室の図面だけ見ると質素に見えるかもしれませんが、そういうことも可能だということは確認しております。こちらが一つ目、「撮っても楽しい科学展（仮称）」ということで、画像撮影、SNSに特化した、視覚、錯視を活かした企画展です。

『なりきり！きょうりゅうランド』～おいでよドキドキ恐竜の国～（仮称）

二つ目が『なりきり！きょうりゅうランド』～おいでよドキドキ恐竜の国～（仮称）です。恐竜のコンテンツは、先ほど事業実績報告の中でもあったんですが、非常に子どもたちに人気で、たくさんの来館者が見込まれるコンテンツとなっています。その恐竜になりきって、自分の体を動かすと、自分が選んだ恐竜がデジタルの映像世界で動き出す、という仕掛けがテーマになっています。自分と恐竜の共通点、相違点を見つけて、自分の体の動きに合わせて動く恐竜たちを楽しむコンテンツになります。また自分たちで色をぬった恐竜のぬり絵をスキャンすると、3D化したぬり絵の恐竜が大画面で現れ、自分たちが走るのに合わせて画面上で恐竜が走り出すというレースに参加でき、レースが終わると、スキャンしたぬり絵を基にしたオリジナルの恐竜のペーパークラフトが持ち帰れるという、なかなか他では見られない楽しいコンテンツもあります。さらに学びのコンテンツとしては、地層を模した図面にスマホをかざすと、スマホの画面に恐竜に関する知識などが次々と映し出され、自分で探求できる、というコンテンツもあります。

別刷りの資料を御覧ください。これも中身を細かく順を追ってお伝えします。

まず『スピノサウルス深掘コーナー』ですが、全体の図面を見ていただくと分かりやすいので、資料の最後のページを御覧ください。特別展示室の会場に入ると、正面にスピノサウルスの首やしっぽが動く模型が、バツと目に飛び込んできます。スピノサウルスという恐竜、御存じない方もいらっしゃるかも知れませんが、資料1枚目の裏を御覧いただくと、子どもたちにとって、ティラノサウルス、トリケラトプスに次ぐ、すごく人気が高い恐竜で、水の中でも活躍できる肉食の恐竜です。（どちらが強いかということで、しばしば話題になるなど）ティラノサウルスのライバルのような恐竜として、とても人気が高い恐竜です。その大きな模型が目前にあって、一緒に記念撮影ができるなど、シンボルとなる展示だと思います。

その下にあるのが『恐竜ぬりえダービー』で、先ほど簡単に説明しましたが、真っ白な恐竜のぬり絵に自分で色を付けてスキャナーで読み取ると、デジタルコンテンツとしてオリジナルの恐竜が画面の中で動くんですが、画面の前の床にある恐竜の足跡マークの上で、ぬった人が走る動作をすることで、画面の中の恐竜が走り出し、最大6人まで参加できる恐竜のレースができます。走っている間に、スキャンしたぬり絵がペーパークラフトとして印刷され、おみやげに持って帰れるということで、ぬるのも楽しい、遊ぶのも楽しい、最後におみ

やげまでもらえるという、すごく特別なコンテンツになっています。

さらに『まねっこ恐竜』ですが、デジタル画面で投映されるいろんな恐竜の中から選んだ恐竜が、カメラでとらえた自分の動きに合わせて動き出す、というもので、自分が右手を挙げれば画面の中の恐竜も右手を挙げる、跳べば恐竜も跳ぶ、というように、自分が画面の中の恐竜になりきったような感覚を楽しめるコンテンツになっています。

資料の紙面の都合で割愛していますが、学術的な部分で、壁に化石をポンポンポンと描いた地層の図面が掲示してあり、スマホをかざすと恐竜や化石の情報が得られるというコンテンツも充実しています。

最後に全体の会場図を御覧ください。会場に入るとまず、スピノサウルスがバァッと目に入ると思うんですが、その右側には先ほど説明した『恐竜ぬりえダービー』が、ドンと広くありまして、実際にぬり絵を楽しめて、ペーパークラフトも持ち帰れるコーナーがあります。左手には『まねっこ恐竜』、自分の体の動きに合わせて恐竜が動き出すというコンテンツがありますので、どこを取っても華やかで、動きが楽しめる企画展になっていると思います。二つ目の「なりきり！きょうりゅうランド（仮称）」、以上です。

「くらべてみよう！どうぶつ原寸大図鑑展（仮称）」

三つ目を御説明します。「くらべてみよう！どうぶつ原寸大図鑑展（仮称）」ということで、動物も子どもたちには大変人気のあるコンテンツとなっています。原寸大図鑑展の名のとおり、いろんな動物たちが原寸大、実物の大きさのパネルのような形で会場中にあふれる、資料には100点と書いています。動物園とかでは見たことあるけれど、実際にすぐ隣にいて比べるわけにもいかないの、自分で身近に、自分との大きさ（の違い）や、違うところ似たところを比べられる、その生態を実感できる企画展となっています。

別刷りの資料2枚目の表を御覧ください。（体験型展示物ゾーンの）『背比べ』は、実際に等身大の動物パネルの横に並んで、シンプルにパンダと自分、どっちが大きいかな、キリンと自分、どっちが大きいかな、と比べることができます。『重さ比べ』は、（動物の）重さを模した重りをですね、どれくらい重いのかなあということを、実際に手で持ち上げて楽しむことができます。

グラフィックゾーン、1枚目の資料裏の部分をお見ください。世界最小のほ乳類の一つであるチビトガリネズミと世界最大のほ乳類であるシロナガスクジラの等身大の図面があって、シロナガスクジラは口の部分だけですが、それらの大きさの違いを知るとともに、自分との大きさの違いも知ることができるという展示です。

その隣の体験型展示物は、さまざまな飛び跳ねる動物たちのジャンプ力を比べた図面が床にあって、実際にカンガルーはこんなに跳ぶのかな、ということ、自分でもジャンプしてみても体験できるという展示です。

デジタルコンテンツも充実していて、デジタル動物クイズ、デジタル動物ゲームというのが、2枚目の資料表、下の部分にあります。『デジタル動物クイズ』については、画面に現れるさまざまな動物についてのクイズに答えていくというもので、その隣のデジタル動物ゲーム『ペンギンジャンプ』は、こちらも床に足跡の形がありますが、そこでジャンプすると、デジタル画面上でペンギンがさまざまな障害物を跳び越えながらゴールを目指す、というコンテンツになっています。

それから、こちら動物への学び、ということで、グラフィックゾーンでは、実際にメジャー等を使って、自由研究じゃありませんが、グラフィックパネルの中から答えを探し出し、自分で作るノート『マイ図鑑』をどんどんどんどん充実・完成させて持ち帰れる、というような取り組みも用意されています。

以上三つの提案を見ていただきましたが、どの企画展も夏休みにお子さんが楽しんでいただけるような、充実した内容にはなっております。

「撮っても楽しい科学展（仮称）」は、展示の中に自分が実際に飛び込んで、SNSを通して、視覚、錯視、目の錯覚、不思議だなあという感覚を広く情報発信できるコンテンツになっています。

「なりきり！きょうりゅうランド（仮称）」はとにかく子どもたちに恐竜が大人気ということもありますし、実際にぬり絵もできて、デジタルコンテンツで遊べて、さらにペーパークラフトまで持って帰れるという、さまざまな点で恐竜に触れて楽しめる企画展になっています。特にスピノサウルスの大型の展示物は、目を引くシンボルになるであろうと考えられます。

「どうぶつ原寸大図鑑展（仮称）」は、なかなか近くに、すぐ隣では触れられない動物たちの生態や大きさを目の当たりにして、子どもたちに感じてもらうことも多いだろうし、実際に調べたり比べたりすることで、子どもたちの学びに繋がるコンテンツかなと思います。

いずれのコンテンツも夏休みの企画展として間違いない物ですので、御協議いただき、選定していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【会 長】ありがとうございます。それでは、委員の皆様にも御協議いただきたいと思います。どなたか夏休み企画展について、御意見、御質問など、ございますでしょうか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

【会 長】では、お一方ずつ、御意見をお聴きしていてもよろしいでしょうか。

【うなづく者多し】

【会 長】はい。名簿の順に行かせていただきます。よろしく願いいたします。

【委 員】はい。要項の付いてる資料にもありましたが、資料1-3を見ても、やはり恐竜はすごい集客力があるんだということが、数字からも分かるので、であれば、二つ目の（「なりきり！きょうりゅうランド（仮称）」）が、やはり子どもたちは喜ぶのではないかという風に思いました。以上です。

【会 長】ありがとうございます。では次の委員さん、よろしく願いいたします。

【委 員】はい。どれも楽しくて、間違いないのかな、と思っているんですが、ずーっと続いている企画展の内容でいうと、久しぶりに恐竜が良いのではないかな、と思いました。以上です。

【会 長】ありがとうございます。次の委員さん、よろしく願いいたします。

【委 員】どれも楽しそうでいいな、と思ったんですが、結論を言いますと、恐竜が良いのか

な、と。体を動かしながら体験できるというのが、子どもたちにとっても、楽しいものになるのかな、と考えています。

【会 長】はい、ありがとうございます。では次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】子どもが大きくなったから、なかなか分からないところはあるんですけど、先ほどの委員さんが言われたように体を動かせるもの、そういう展示が良いのかなと思いましたので、恐竜かなと思います。

【会 長】ありがとうございます。なんとなく恐竜に意見が傾いてきていますが、次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】このあと「恐竜に」というのは、なかなか言いづらいところはあるんですが、一つ、最後の決を出す前に、あの、映画の方も、恐竜であります。具体的な内容は、(手元に配付の資料で)ざっとしか見させてもらってないんですが、『ダイナソー・サバイバル』の方は、パッと見たら折り紙の恐竜が出てきたり、というところを重ね合わせて、そのあと実際に自分たちも(恐竜のペーパークラフト作りが)出来ますよという話で行くのなら、2番目の「恐竜」も良いかなというのもあるんですが、それ以外に、最初の「撮っても楽しい科学展」に関しては、何というのかな、映えらしいじゃないですが、撮ったりするところでけっこうな時間がかかったりして、人の流れが混む可能性があるんじゃないかと思うんです。で、恐竜の方では、ぬり絵コーナーのところで、けっこう人が溜まることのできるの、その間を見て『ぬりえダービー』の方へ流れるとなれば、かなり的人数がここに集まっても、効率よく短時間で人を動かすことができるのかなあというところが、一番良いなと思いました。3番目の内容、動物の方も良いなと思ったんですが、人数的に見ると、動物ゲームだったり、同じ8名程度が作業ができるんですが、そこに人を取られると、他で待つところが無いってことと、グラフィックのところ、人に集めることはできるんですが、ちょっと見る限り、壁のところ、パネルがあるとなると、その近くにいる人はすごく見やすいと思うんですが、周りから見るとなかなかうまく見えなかったりとか、QRコードを(スマートフォンを)かざして(という操作を)、うまくやりたいと思ってる人が(パネルから離れていて)できないとなると、ちょっと人数を短時間で回すとなると、内容的にはすごくおもしろそうだなと思うんですが、人数の回転率も考えたら、真ん中の恐竜が今年は良いなと思って。で、それに対して映画もちょっとその辺りも関係して考えていかれるのも良いのかな、と思いました。すみません、長くなってしまいました。

【会 長】いえいえ、ありがとうございます。次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】2番目か3番目かなあと思って、見させてもらいました。で、幼稚園の子をイメージすると、飛びつくのは断然、恐竜です。10人いたら9人、絶対、恐竜に行きます。ただ、興味だけじゃなくて、新しいことを少し発見したりだとか、動物に目を向けたりだとか、実際、図鑑をすごく見る子もいるので、そういう子に少し目を向けて、恐竜ではないところに、少し見てほしいなあという願いを込めるのであれば、動物も、実際の大きさが、図鑑ではないところで見えるので、意味があるかなあと思って、見させてもらいました。

【会 長】はい、ありがとうございます。では、次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】はい、私も恐竜が良いかなあと思っています。人の流れでちょっと気になったのが、たぶんペーパークラフトの滞在時間、1回に捌ける人が6人ずつということなので、ここがちょっと溜まってしまふかなあ、というのがちょっと気にはなったんですけど。空いてるとき

は空いてて、混むときは混んでしまう。ただ周りに『まねっこ恐竜』等で動く場所があるので、まあ何とか回るのかな、という風に思いました。で、初めの「撮っても楽しい科学展（仮称）」の展示はですね、ぜひ常設展示に欲しいな、と思ったりするようなところで、最近、常設展示の入替えが全くないので、そういう点で言うと、こういうのが一つ入って来るだけでも、すごく楽しそうだな、と感じております。はい、以上です。

【会 長】ありがとうございました。

【副会長】私はですね、個人的には一番最後の「どうぶつ原寸大図鑑展（仮称）」がおもしろいな、と思ってはいるんですけど、ちなみにこれ、『マイ図鑑』と書いてありますが、これは何か、紙で配って、参加した子に、どうぞ、みたいに配られるんですかね。

【事務局】そうですね。

【副会長】あの、どうぶつ図鑑の方も、それと2番目の恐竜の方も、おみやと言いますか、おみやげがあって、帰ってからも楽しめるというか、学びが深まって良いのかな、と思いました。先ほど御意見有りましたが、このあとの映画の方とセットで考えて、恐竜を見た子が、ぐっとですね、より来たいな、という気持ちを高めるならば、2番も有りかな、とは思いましたが、大勢としては恐竜の方が人気が高いけれども、私は個人的には、どちらかという動物の方が良いかな、と思ってコメントさせていただきました。でも、どちらでも良いと思います。

【会 長】ありがとうございます。だいたい恐竜が、意見が多くなっておりますが、私も、次の映画とどういう風に合わせていくか、合わせるのであれば、やっぱり恐竜の方が良いのかなあ、と思いながら見させていただいておりました。あの、人数のことまでは、私は考えが及ばなかったもので、委員さんからのとても貴重な御意見、すごく参考になりました。ありがとうございました。今、皆様からお答えいただいて、人数的に言えば「なりきり恐竜」かな、ということになるんですけども、結論を出していきたいと思うんですが、「なりきり恐竜」ということで、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】はい。では、今回、「令和5年度夏休み企画展」は、『なりきり！きょうりゅうランド』～おいでよドキドキ恐竜の国～(仮称)」ということで、結論付けたいと思います。

【会 長】次に協議事項の2、「令和5年7月期全天周映画上映作品の選定」について協議するため、会場の移動をお願いいたします。

本日上映していただくのは、『新・恐竜大進撃』と『ダイナソー・サバイバル 恐竜たちの大進化』の2本です。10分後に上映を予定しております。

(プラネタリウムに移動)

ープラネタリウムで全天周映画候補作品試写を鑑賞ー

(上映終了後、実験実習室に移動)

(5) 【協議2】令和5年7月期全天周映画上映作品の選定について

【会 長】 それでは全天周映画上映作品について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 まずは長時間に渡り、2本の映画を御覧いただきまして、ありがとうございました。

資料については、カラーの映画のチラシが後ろの方に付いております、資料4-1から始まる束を御覧ください。

まず、資料4-1「全天周映画上映作品の選定について」、こちらの方を御覧ください。

全天周映画については、年間3本、7月と11月と3月に新作映画を上映することとしています。今回選定していただくのは、今年の7月から、夏休みに当たる期間に上映する作品です。

先ほど御覧いただいた候補作品ですが、次の4-2ページを見ていただくと、科学センター職員を対象とした試写の評価のランキングの上位の作品から選ばしていただいたということになります。

その評価の右寄りに星印を並べている部分がありますが、科学センター職員の評価として、内容が「子ども向け・ファミリー向け作品」なのか、あるいは「大人向けで科学性の高い作品」なのか、といった作品の傾向を示しています。左寄りほどファミリー向け、右寄りほど大人向け、ということで、今回の2作品、得点も同点ですし、内容分析も、いずれも恐竜映画ですので、同じような傾向になっております。

下の方は、近年の上映作品の一覧です。

さらに次のページ、資料5「全天周映画の作品選定の基本的な考え方（ガイドライン）」を御覧ください。

上の方に表がありますが、今月の初めまで、作品A、B、Cを上映しておりまして、今月切り替わって、今は作品B、C、Dの3作品を上映しているところです。で、7月から作品C、D、Eに切り替わって、今回は作品Eに当たる番組を選定していただくことになります。つまり、現在上映中の作品C『アポロストーリー』、作品D『眠れない夜の月』、これらの作品との組み合わせも意識していただけたらと思います。いずれの作品が、科学センターで上映するのに相応しいか、御協議をお願いいたします。

【会 長】 ありがとうございます。それでは委員の皆様にご協議いただきたいと思っております。どなたか、上映作品について、御意見、御質問など、ございますか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

【会 長】 無いようでしたら、先ほどの要領で皆様お一人ずつに、御意見等をお伺いしたいと思います。また同じ順番ですけれども、最初の委員さん、よろしく御願いいたします。

【委 員】 どちらも恐竜の作品ということで、全天周映画ならではのダイナミックな構成の映像になっていたのので、どちらもすごく良いな、と思いました。

今までの流れでいくと、子ども向けの作品、宇宙物とそれ以外の作品が、ぐるぐると回っていたような感じだったと思うんですが、今回は両方とも恐竜なので。であれば、この前後の作品を見ると、『しまじろう』と『眠れない夜の月』が子ども向けの流れで来ている中で、（恐竜物という）子ども向けの作品が並ぶのはどうなのかな、という気もしながら、でも、私、

国語の教員なのですが、自分自身が小学生のころを思い出すと、パンゲア大陸の「大陸は動く」という説明文だったと思うんですけど、あれがすごく強烈に残っていて、宇宙のことも絡んでいたのも、いろんなところに興味を持たせることができる要素が散りばめられていたのが2本目『ダイナソー・サバイバル』のような気がしています。以上です。

【会 長】ありがとうございます。次の委員の方、お願いいたします。

【委 員】はい。同じように甲乙つけがたいな、というところはあるんですけど、自分自身で観て、興味を惹いたのは最初の方（『新・恐竜大進撃』）だったんですけど、先ほどの委員さんも言われたように、子ども対象ということで、ストーリー性とか、観やすさとか、その辺りを考えると、『ダイナソー・サバイバル』になるのかなあ、という風に思いました。

【会 長】はい、ありがとうございます。続きまして、次の委員さん、お願いいたします。

【委 員】はい。どちらもパッと見て、良い作品だな、と思ったんですけど、まず2番目に観た『ダイナソー・サバイバル』なのですが、僕の感想では、ちょっと小さいお子さんには難しいのかな、と思いました。より深い知識を得たいという人にとっては、すごく良い作品だとは思いますが。一方『新・恐竜大進撃』は、逆に小さいお子さんから僕みたいな大人が観ても楽しめるような、（恐竜に）興味を持ってもらえる入り口になるような作品になるのかな、と思ったので、どちらかと言うと、『新・恐竜大進撃』の方が良いのかな、と思いました。

【会 長】ありがとうございます。続きまして、次の委員の方、よろしくお願いいたします。

【委 員】正直言って、どちらも楽しかったです。最初の『新・恐竜大進撃』の方で、僕も初めて、ティラノサウルスが群れで子育てをしていたということを知って、感動したんです。どちらの作品も、良かったと思いましたが、僕も二人目の委員さんがおっしゃったのと同じような（見やすさ等を考えて『ダイナソー・サバイバル』が良いのかなという）感想でした。

【会 長】はい、ありがとうございます。では、次の委員の方、よろしくお願いいたします。

【委 員】どちらも見応えのある作品だったと思いました。観る場所、座った場所にもよるのかも知れませんが、1作目（『新・恐竜大進撃』）については、画面がちょっとズレているような感じが、どうしても気になってしまいました。動きに関しては、自分が動いているような感覚になれるので、そこはおもしろいな、と思ったんですけど、やはりズレが気になったので。あと、一番気になったのが、リアルなところが。職員の方の感想（「狩りのシーンはなかなかリアルで、見るのがつらい）にも書いてありましたが、捕食シーン、狩りのシーンというところが、ちょっと同じトリケラトプスが（繰り返し襲われる）、というシーンがけっこう多かったのが、気になりました。

あとは先ほど決定した企画展で、スピノサウルスがどちらも出てきますが、（映画を観た）後で、企画展でも見るができるという意味では、より映像が企画展の内容に近かったのは2作目（『ダイナソー・サバイバル』）の方だったように思います。時代の流れとか、進化の流れといったところも、難しい内容ではあるんですけど、少し分かりやすく、小さな子どもでもちょっと取っつきやすいような表現の仕方もあったように思いますので、個人的な感想としては、2作目の方にすごく興味を持ちました。以上です。

【会 長】ありがとうございます。続きまして、次の委員さん、よろしくお願いいたします。

【委 員】内容からすると、最初の方（『新・恐竜大進撃』）が、分かりやすく、迫力があって良いのかな、と思いました。ただ、作品の作り方とか、工夫という点で言うと、あと（『ダイナソー・サバイバル』）かな、という感じがして、小さい子も見て云々と考えていくと、7：3

くらいで、私としては前（『新・恐竜大進撃』）を選ぶかな、という印象で見させていただきました。

【会 長】はい、ありがとうございます。次の委員の方、よろしくお願いします。

【委 員】両方ともおもしろかったんですけど、1作目（『新・恐竜大進撃』）の方は、ちょっと子どもに怖い印象を与えるのかな、というところが、一つ気になりました。あと、作品としても少し古いのが気になっていて、今やっている恐竜の作品（『恐竜超世界』）よりも戻ってしまう内容というのは引かかるところではあります。あと、両方の作品にスピノサウルスが出てきましたが、今の企画展に合っているのは、後半（『ダイナソー・サバイバル』）ですね。『ダイナソー・サバイバル』の方は、スピノサウルスへの理解が進んでいるので、新しい作品の方が正しい姿になっているのかな、と思います。

で、2作目（『ダイナソー・サバイバル』）はですね、地球の進化もあって、難しいところもあるんですが、個人的にはこちらの方が、僕はおもしろかったかな、と思っています。怖さが少ないという点でも、子どもたちには観やすいのかな、と思います。

【会 長】ありがとうございます。では、最後に副会長、お願いいたします。

【副会長】私は生物の教員なので、たぶん気持ち的には子どもたちに近くて、毎週（NHKの『ダーウィンが来た！』）を見ているんですが、最初の作品（『新・恐竜大進撃』）は（同じNHKの制作した画像素材を使っていることから）既視感というか、見覚えがあるCGと見覚えがある動きなので、全天周映画でわざわざ劇場で観た、となると、後半の『ダイナソー・サバイバル』の方が、映画館で観たなあ、という、わくわく感というのがあって、家でテレビでも見られる映像を使った前者（『新・恐竜大進撃』）よりは、満足感が得られる気がしました。それから、確かに皆さん言われるように、（『ダイナソー・サバイバル』の方は）ぶっきらぼうな説明で詳しく説明してくれないんですが、興味を持って調べれば調べられないこともないし、子どもたちも、家の息子なんか考えたときに、恐竜が好きなんだけど骨があんまり好きじゃなくて、生きている雰囲気が好きなんで、前半の方（『新・恐竜大進撃』）が説明は多かったんだけど、やっぱり骨（の化石）からのスタートだということで、骨よりは、（恐竜が）今の鳥につながっているという話の方がおもしろいよね、ということで、後半の方（『ダイナソー・サバイバル』）が良いな、と私は思いました。

【会 長】ありがとうございます。私もどちらかと言うと2作目（『ダイナソー・サバイバル』）の方が良いかな、と思って観ていました。1作目の方は、恐竜が激しく動いている感じがかなりあって、観ていて酔うような感覚を持つ人がいるのかな、と。苦手な方は、そういう感覚を持ってしまわれるのかな、と思いました。また、狩りのシーンとかもしっかりあって、それは良いことだとは思いますが、ちょっと怖いな、と思ったりするのかな、とも。

【会 長】さて、今までの御意見をまとめますと、どちらかと言うと『ダイナソー・サバイバル』の方が良いという意見が多かったように思います。そこで、選定作品は『ダイナソー・サバイバル 恐竜たちの大進化』ということで結論付けたいと思いますが、よろしいでしょうか

【全員異議なし】

【会 長】その他について、何かございますか。

【特に意見なし】

【事務局】事務局からも、特にございません。

【会長】はい、それでは本日の協議事項・報告事項のすべてを終了しました。

最後に、諮問についての答申内容の確認をいたします。

「令和5年度夏休み企画展の選定について」は、先ほどの結論どおり、『『なりきり！きょうりゅうランド』～おいでよドキドキ恐竜の国～(仮称)』選定することとし、「令和5年7月期全天周映画上映作品の選定について」は、同じく先ほどの結論どおり、『ダイナソー・サバイバル 恐竜たちの大進化』を上映作品として選定することとする、という内容で答申書を作成することとしてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会長】ありがとうございます。それでは、本日協議会で議論すべき事項は、すべて終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

(ここから事務局が進行)

【事務局】長時間に渡り、熱心に御審議をいただき、ありがとうございました。

議事録につきましては、先ほど選任されました委員の方に郵送させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上で、令和4年度第2回倉敷科学センター協議会を閉会いたします。

令和5年3月29日

会 長 箕口 けい子 

議事録署名人 福田 尚也 

議事録署名人 荻野 正樹 
